

1 目指す学校

国や都の動向

- ・アクティブ・ラーニング
- ・教育のDX
- ・体験活動の充実
- ・英語によるコミュニケーション能力の充実
- ・いじめへの対応
- ・不登校児童への対応
- ・コミュニティスクールによる社会に開かれた教育課程の実現
- ・こども家庭庁の新設

府中市教育委員会教育目標

- 子どもたちが、心身ともに健康で知性や感性を磨き、道徳心と体力を育み、人間性豊かに成長することを願い、
- 他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人
 - 社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人
 - 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人の育成に向けた取組を推進する。

府中第十小学校 教育目標

児童一人一人のもてる力を伸ばし、個性豊かに世界に活躍する“府中っ子”を育てるために、次の目標の達成に努める。

- 明るく健康な子ども
- 仲よく助けあう子ども
- すすんで学習する子ども

二中学区の目指す児童像

- 主体的に学習に取り組む子
- 読書に親しむ子
- 礼儀正しく、気持ち良い挨拶ができる子
- 進んで運動に親しみ、体力を高めようとする子

教職員の実態

- ・平均年齢 40歳
- ・主幹教諭2名、主任教諭14名、育休4名
- ・子どもとの良好な関係
- ・指導や校務を補助する人材

保護者・地域の実態

- ・協力的な保護者
- ・温かく見守り、協力的な地域
- ・公共施設や公園等の環境

児童の実態

- 明るく素直であり、教員との関係が良好である。自分たちでよい学校にしたいという思いで、相互にかかわりあう学校風土がある。
- 学力は、国語と理科は都平均と同様であるが、算数は3ポイント下回っている。
- 昨年度、不登校の児童が15人おり、そのうち90日以上欠席者が8人いる。

目指す学校像

ポジティブな雰囲気溢れ、皆が活躍できる学校

- ・「もっと～したい」という気持ちが溢れる児童
- ・児童を育てるゴールイメージをもち、褒めて伸ばすことができる教師
- ・保護者・地域と双方向の連携を図る学校

2 中期的目標と方策

目標 1

児童の心に寄り添った指導の充実

- (1) いじめへの適切な対応
 - ・府中市いじめ条例に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解決、解消後の見守りを全教職員で共有する。
 - ・週一回の生活指導夕会やふれあい月間などのアンケートなどにより、軽微ないじめを見逃さない教師の意識を高める。
 - ・多様性を理解し、互いに認め合うための指導の充実を図る。
- (2) 子どもの「困り感」に寄り添う特別支援教育
 - ・生活指導夕会や支援委員会を通し、各支援員を含めた全教職員で支援策を共有し、一人一人のスモールステップの成長を促す。
 - ・必要に応じて、ひばり教室担当教員が通常の学級への助言などの支援を行う。
 - ・タブレット端末を有効に活用し、授業のUD化を推進する。
- (3) ゴールイメージに向け、価値付け、褒めて伸ばす（自己肯定感、自己有用感）
 - ・児童が主体的に問題の解決を図る学習指導や生活指導を充実させる。
- (4) 「あいさつ運動」などによる学校風土の醸成と自治のできる児童の育成
 - ・学級会や委員会などの特別活動を充実させ、自分たちで考えて行動する児童を育成する。
 - ・様々な機会を通して、アンコンシャスバイアスなどの視点からの男女の別などを見直し、男女共同参画社会の一員としての基礎を養う。

目標 2

学ぶ意欲の向上と個に応じた学びの充実

- (1) 問題解決的な学習、協働的な学習の充実
 - ・教師主導型からの児童主体型の授業への転換を徹底し、児童の自ら学ぶ意欲や自分自身で学ぶ力を向上させる。
 - ・教員に45分間の授業の時間配分を意識させ、児童が話す、読む、考える、書くなどの学習活動を行う実学習時間を確保する。
 - ・協働的な学習によって学びが深まったことが実感できるよう、発表や交流の在り方を見直す。
- (2) デジタルシティズンシップ教育の推進
 - ・日常的にタブレット端末を授業で使用させ、発達段階に応じたデジタル活用能力を育成する。
 - ・タブレット端末を活用した家庭学習を試行する。

- ・情報モラル教育を系統化し、家庭や地域と連携して取り組むことで、児童のリスクマネジメント能力を高める。
- (3) 国際社会で通用するグローバル人材の育成
- ・東京外国語大学との連携やTGGの利用、世界とつながる英語Enjoy Weekの充実、ALTによる国際理解教育などを通して、英語や外国の文化に親しませる。
 - ・学習者用デジタル教科書を活用し、リスニング・スピーキングの個別学習を日常化させる。
- (4) 地域のリソース（人材、環境）を活用した体力向上
- ・地域のスポーツ団体やプロアスリートなどと連携し、運動の楽しさを味わわせる。
 - ・近隣の公園などを遠足や校外学習で利用し、屋外で体を動かす機会を設ける。

目標 3

地域・保護者との信頼関係の構築

- (1) 二中学区の保育園、幼稚園、小学校、中学校との連携し、地域で子どもを育成
- ・二中学区の小・中学校等との育てたい子供像を共有し、様々な職層間による情報交換を行い、18年間を見通した地域ぐるみの健全育成に取り組む。
 - ・地域と連携した防災訓練の構築に向けた準備を行う。
 - ・和太鼓クラブなどが参加する二中学区の地域行事への参加を教職員や児童に促す。
- (2) 地域の教育力及びコーディネート力を活用した教育施策の推進
- ・外部講師を招いてがん教育を実施し、生命尊重や健康についての理解を深める。
 - ・未来につなぐ府中レガシー2020を継続的に実施していく。
 - ・医療的ケア児に対し、多角的な視点により支援を構築していく。

目標 4

働き方改革の推進・全ての教育活動の基となる、教師力の向上

- (1) 会議や文書作成の効率化と共有化による勤務時間の短縮
- ・1日の超過勤務1時間30分以内になるよう、メリハリのある勤務を習慣化させる。
 - ・校務の効率化を進める一方で、教職員が助け合う風土を醸成する。
- (2) ライフスタイルに合った働き方とキャリアアップ
(指導力のアップ、キャリアのステップアップ)
- ・男性の育休や子育てにかかわる休暇を推奨する。
 - ・男女共同参画の視点からの意図的に中堅の女性教員を育成する。
 - ・ICT部を中心にしたOJTによりデジタル人材（教職員）を育成する。

3 今年度の取組目標

(1) 教育活動の目標と方策

- ・「もっと～したい」という気持ちが溢れる児童
- ・児童を育てるゴールイメージをもち、褒めて伸ばすことができる教師
- ・保護者・地域と双方向の連携を図る学校

- ・児童自身が見通しをもって自分自身で学ぶ授業になるよう、授業観察や校内研究などの機会を通して、教員の授業改善を図る。
- ・子供一人一人のよさを認め、具体的にほめることを、全教職員で日常的に行う。
- ・校長室や応接室を積極的に開放し、保護者や地域の方と話をする機会を増やす。

(2) 重点目標と方策

① 不登校傾向の児童への早期対応、不登校児童への多様なアプローチと学びの保障

目標値 昨年度に90日以上欠席した児童全員を、9月までにサポートルームやフリースペースなどの居場所への参加、もしくは、みらいやSSWなどの福祉的なサポートへとつなげる。

目標値 10月までに、不登校児童への支援として、タブレット端末での授業支援を試行する。

- ・サポートルームやフリースペース、紅葉ヶ丘文化センターなどの居場所や各種支援員、みらいのスタッフ、SSW、地域人材などの支援者のリソースを整理し、適宜、関係者で支援策を協議し、不登校児童の支援を継続的かつ効果的に行っていく。

② アフターコロナの学校における体験的な学習の充実

目標値 各学年で、校外での活動や体験的な活動、人と交流する活動など、年間10回以上実施する。

- ・体育的・文化的行事や校外学習、体験的な学習、ゲストティーチャーを招いた授業などを、感染症等の状況を踏まえながらも、全面的な実施を目指していく。
- ・各活動の在り方について、児童や教職員、保護者、地域の方々が考え、よりよい活動となるよう協議を重ねる。

③ 地域全体で子供を育てる風土の醸成と、地域や保護者と協働した教育活動の推進

目標値 スクールコミュニティ協議会やPTA、保護者による協力を得る活動や学校の教育活動の公開などの機会を、各学期2回以上設ける。

- ・スクールコミュニティ協議会や青少年対策第二地区委員会等と協働した防災訓練の構築に向け、学校の避難訓練を公開する。
- ・スクールコミュニティ協議会によるサマースクールを再開し、地域と協力して、児童の学力の定着を図る。